

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第1号 野菜

発行日 平成26年 3月20日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 積極的な融雪作業と圃場にたまった雪解け水の排水に努め、は種、定植の準備を進めましょう。
- ◆ 計画的なは種・育苗で、適期作業に努めましょう。
- ◆ 施設栽培では定植前後の地温確保、保温管理により活着促進を図ります。
- ◆ 育苗中の苗は温度管理を徹底し、不良果の発生や徒長を防ぎましょう。

1 融雪・排水対策、圃場準備について

例年より降雪量が多く雪解けが遅れている地域もありますので、融雪・排水対策と圃場準備を計画的に進めて下さい。特に昨年豪雨による冠水被害を受けた圃場では、定植前に排水対策をしっかり講じて今年の栽培に臨みましょう。

(1) 施設野菜

ア 育苗期後半となり、高温により苗の生育が進み、軟弱徒長になる場合があるので、ずらしを行い徒長しないように心掛けます。

(2) 露地野菜

ア レタス等の葉菜類で定植時期を迎える作型があります。育苗中は温度管理を徹底し、徒長を防止しましょう。

イ マルチを利用する品目では、適湿時にマルチを張って地温を高め、発芽や活着を促進させましょう。また、べたがけ資材を準備し、低温、降霜等による傷みを回避しましょう。

2 果菜類の育苗・定植準備

果菜類の苗は、定植時には既に上位の花芽の分化が進んでいます(表1)。

定植時の低温や活着の遅れは、上位の果実にも大きく影響するので注意しましょう。

表1 主要果菜品目の生育ステージと花芽分化

品目	生育ステージ	花芽分化
きゅうり	本葉3枚時	15節まで分化
トマト	本葉8枚時	3段花房まで分化
ピーマン	本葉13枚時	第5次まで分化

(1) 露地果菜類

露地きゅうり、簡易雨よけトマト、露地ピーマン等の育苗管理では、播種床や移植床の地温確保をしっかりと行い、生育ステージに応じた温度管理に努めましょう。日中に蓄熱したハウス内の保温効率を高めるため多重被覆を行うとともに、育苗床の保温は保温性の優れる農ビを使用し、さらに断熱シートや反射シート等をかけます。

(2) ハウスきゅうり

ア 本葉3~3.5枚のやや若苗定植とします。定植5~6日前から夜温を15℃程度とし、順次ずらしを行うとともにかん水を控えて徒長を防ぎましょう。

イ 3月下旬~4月上旬の定植では、保温または補助暖房が必要です。地温の上昇が期待できるマルチの利用や内張りカーテン、トンネル被覆の他、温水チューブをマルチ上に設置するなど、地温確保と保温に努めましょう。

ウ 定植後は、根をしっかり張らせるために主茎長30cm(または5節)までの雌花と側枝を除去

します。草勢が弱い時は、10節位までの雌花も摘果し、草勢回復を図るとともにしっかり根を張らせましょう。

活着後は湿度をやや高めに管理し側枝の発生を促します。

(3) 雨よけトマト

ア 育苗期に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生しますので、夜温は10℃以下にならないよう保温が必要です。育苗期のカルシウム剤の葉面散布も有効です。

イ 苗が生長するにしたがい、順次ずらしを行い、徒長苗防止、葉かび病等の発病防止に努めましょう。

ウ 定植は1段花房が1～2花咲いた頃の苗をやや浅植えします。活着を促進するために地温15℃以上を確保するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行います。

(4) ハウスピーマン

ア 定植前までは生育抑制等を防ぐため、15℃以下にならないよう保温に努めます。定植5日前からは夜温を15℃程度に下げ、かん水も控えめにします。肥料切れの兆候が見られる場合は、液肥を施用します。

イ 定植時期の温度管理は、地温18℃を確保できるようにマルチの利用やトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備が必要です。定植後、根鉢が乾かないよう株元に手かん水し、活着を確認した後はかん水チューブによるかん水に切り替えます。

3 葉菜類のは種・育苗・定植準備

露地野菜では育苗期の温度管理を適切に行い、期間の後半には外気に当てて外の環境に慣らしましょう。定植後はべたがけ資材(表2)を使って低温、降霜、強風の被害を防ぎましょう。

(1) キャベツ

ア 気温の上昇に伴い、苗の生育も早まります。定植が遅れると老化苗となり活着の遅れ、玉揃いや品質の低下につながります。育苗時の温度管理を徹底して、苗を徒長させないようにしましょう。この時期の定植適期の目安は、128穴のセルトレイでは本葉3～3.5枚です。

イ 早春は種のは作型では、定植後の活着促進、降霜による傷みの防止、初期生育の促進を目的として、べたがけ資材の利用が有効です。

(2) レタス

ア 苗を徒長させないように育苗管理に注意するとともに、圃場準備を早めに行い、適期に定植を行いましょ。

イ キャベツ同様、定植後にべたがけ資材を利用して、生育促進、霜害防止を図りましょ。

ウ キャベツ、レタスとも低温には比較的強い作物ですが、活着する前の強い低温により枯死する場合がありますので、特に定植直後はべたがけ資材による保温を心がけましょ。

表2 主なべたがけ資材とその特性(「施設園芸ハンドブック」等より引用)

種類	素材	商品名の例	耐候性	強度	資材面の結露	透光率	耐用年数
長繊維不織布	ポリプロピレン	パオパオ 90	△	△	有	90%	1～2年
	ポリエステル	パスライト	○	△	有	90%	1～2年
割繊維不織布	ポリエチレン	日石ワリフ	△	○	少	90%	2～3年
	ポリビニルアルコール	ベタロン	◎	◎	極少	93%	5～7年

(3) ねぎ

ア 育苗日数は、地床育苗で 70～90 日間、セル成型育苗やチェーンポット育苗で 50～60 日間が目安となります。日中の高温、育苗培土の過乾燥に注意しましょう。葉色が薄い場合はかん水を兼ねて液肥を希釈して施用します。

イ 定植圃場の植え溝は管理機等で深さ 15～20cm 程度にします。土壌水分が多い時の植え溝掘りや定植作業は、活着不良と欠株の要因となりますので、圃場排水対策を実施し、適湿時を選んで作業しましょう。

(4) 雨よけほうれんそう

ア 雪解け水だけに頼って春一作目を栽培すると、水分が不足したり、生育にムラが生じたりします。かん水をしっかり行って栽培しましょう。

イ は種後にべたがけ資材を用いることにより、発芽揃いが良くなりますが、長期間の被覆は徒長の原因となるので、発芽が揃った時点で除去します。

ウ 低温期の作型では、ケナガコナダニ類の食害が多発しています。前年に発生が見られた圃場では、発芽が揃った頃に、1 回目の薬剤散布を十分量丁寧に行ってください。その後も 1 週間間隔で薬剤散布を行うと効果的です。未熟有機物（モミガラ、わらなど）の施用は被害を助長するのでやめましょう。被害株は、必ず圃場外に持ち出して処分します。

次号は 4 月 24 日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。